

HEIMAT 第四回 定期演奏会



KYOTO-UNIVERSITY
ONGAKU-KENKYUKAI

AMAHA ELECTONE

音の世界の豊かさ、美しさ、微妙さが手にとるようにわかります。音楽を表現し、創造する喜びが心の底から湧いてきます。しかも、その調はあくまでもエレクトーン独自のやわらかみと厚さをもとめます。ヤマハエレクトーンは、このように完成された楽器です。世界中がみせられたのも当然です。

京都市中京区三条通寺町東入 **十字屋楽器店**

京 菓 子 司

鼓 月

本 店・銀閣寺電停上ル TEL 79-0063

中 華 料 理

…本 場 の 味 で

お な じ み の…

東 園

東一条通西入ル ㊦ 4908

ハイマート混声合唱団 第4回 定期演奏会

1965 12.17 6.30 P.M.

京 都 会 館 第 二 ホ ー ル

ご あ い さ つ

本日、皆様のあたたかなご支援のもとに、ここ京都府第二ホールに於いて、ハイマート合唱団第四回定期演奏会を開催する運びとなりました事を、団員一同深く感謝しております。

『ハイマート』即ち『ふるさと』と云う名の下に私達の合唱団が生れてからはや五年になりました。それで今年は対外活動の一つの目標に、精神的融和と技術の向上を目指し、今春より京都音大講師伊吹新一先生のご指導を仰ぎ、また去る九月には飛騨高山での合宿に際し現地で、交歓演奏会を催するなど、全員一致協力し日々たゆまぬ努力をしまいにしました。その成果を今宵心ゆくまで発揮したい考えであります。

どうかご忌憚なきご批判と、変らぬご支援を賜りますよう、団員一同心からお願い致します。

なお最後になりましたが、今回初めて賛助ご出演下さる京都薬大ユーベル・コールの皆様には厚くお礼申し上げます。

1965年12月

マネージャー 伊 沢 朗

PROGRAM

I 日本民謡

小倉 朗 作曲

日向地方民謡

1. 刈干切唄
2. 子守唄
3. 木挽唄

東北地方民謡

冬から春へ

原 太郎 作曲

指揮 長 安 敏 夫

「とても大きな望み」

牟礼慶子 詞

中村茂隆 曲

指揮 橋 弥 良 一

ソプラノソロ 野 口 泰 子

メゾソプラノ 小 林 睦 子

テナーソロ 野 口 直 樹

II 賛助出演

「旅」

旅立つ日
村の小径で
旅のよろこび
なごきあゆめば
かごにのって
旅のあとに
いうふたび

京 都 薬 科 大 学

山之井 慎 光 作 詩
田 中 情

佐 藤 真 作 曲

指揮 岡 本 邦 雄

ピアノ 戸 田 寿 栄 子

各国産珈琲・サンドウィッチ

アルペン珈琲店

open. 7.00 A.M.

百万遍電停東 TEL (78) 2602

PROGRAM

—— 歌唱指導・休憩 ——

III 宗教曲

- Cantate Domino
- Ave Maria
- Tenebrae Factae Sunt
- Exultate Deo

Hans Leo Hassler

Marc' Antonio Ingegneri

Tamas Luis de Vittoria

Alessandro Scarlatti

指揮 伊 吹 新 一

IV 「マリニャンの戦い」

ジャスカン 作曲

(吉田隆子訳詩)

指揮 長 安 敏 夫

「私の願い」

高野喜久雄 詞

高田三郎 曲

指揮 橋 弥 良 一

レブラノソロ 川 辺 道 子

テナーソロ 沖 吉 和 祐

バスソロ 日 野 利 昭

ピアノ伴奏 船 井 美 智 子

パンと洋菓子
LP, 音楽喫茶

柳 月 堂

出町柳駅前 ㊞ 5161~4

洋酒 喫茶

木屋町三条上ル
㊞ 0660

柳 月

— 日 本 民 謡 —

小倉朗作曲 日向地方の民謡による三つの無伴奏混声合唱曲

1. 刈干切唄 2. 子守歌 3. 木挽唄

原太郎作曲 冬から春へ（東北地方民謡）

私達の合唱団が日本民謡を歌うのは2年振りになりますが、出来るだけ合唱曲として民謡の味の生かされやすいものを選びました。

どちらの曲も、3つの部分から成っております。日向地方の民謡は、この地方独特の美しさをもった旋律で、労働する人の姿を第一曲のだるい気分から、第二曲の子守を経て第三曲の力強い曲へと続けています。

冬から春へは、第一、二曲で東北の厳しい冬というりをかこむ人々の情景を表わし、そこから第三曲の春を迎える喜びへと続きます。

— 「とても大きなのぞみ」 — 牟礼慶子 詞 中村茂隆 曲
（「合唱界3月号」より）

ソプラノソロ 野口泰子 メゾソプラノソロ 小林睦子
テナーソロ 野口直樹

私達の童謡ともいえる、実に楽しい曲で、私達も楽しく歌いたいと思います。主人公の「はらふき太郎」、君は、途方もない、しかし、すばらしいほらをふきます。「うちには大きな鳥がいる。そいつが羽をひろげれば、空の涯まで広くなり、傘を持たない人がみな、すぐ雨やどりできるのさ。」「うちにはみごとな船がある。西へも北へも、あつというまにのせていく。しあわせうすい人はみな、愉しい旅に行けるのさ。」「山のむこうのものは、ぬい針そっと落としても、こちらの街までできこえるし、けんかをすする子の声もみな、やさしい歌にしましう。」すばらしい世界じゃありませんか。それはそのまま、現代に対する皮肉にもとれます。最後に、「はらふき太郎のいうほらが、みんなほんとになればよい。雲つくような高い背と、なんでも運べる強い手と、知らない国と野と山と、明るい虹をくれるなら、広い世界に二、三人はらふき太郎がいてもよい。」とむずびます。

なお、この曲にはドッペル・コーラス（二重コーラス）の部分があり、配置も中央にソプラノ・テナー、両端にアルト・バスと、丁度半分の所で、二つの合唱グループができるようになっています。いわば、コーラスのステレオ効果ともいふべきものです。

明るい店内

廉価美味・栄養満点
ぜひ一度試食を！

鈴 蘭 食 堂

東一条電停西入ル南側

— 宗 教 曲 —

Cantate Domino “主にむかいて歌え。”

この曲はハスラー（Hans Leo Hassler 1564～1612）の作曲で、彼はガブリエーリに学び、ヴェネチア楽派の作風をドイツに移入した重要な作曲家です。

詩篇第96篇の第1節から第3節の“新しい歌を主にむかいて歌え、全地よ、そのみ名をほめよ。日ごとにその救いを宣べ伝えよ。もろもろの民の中にその栄光をあらわし、もろもろの民の中にそのくすしみわざをあらわせ”によっている。なお“主にむかいて歌え”は詩篇第98篇に作曲される場合が多い。

Tenebrae Factae Sunt （世は暗やみ）

カトリック教会においては、聖週間の水、木、金曜の朝課と讃課に Tenebrae という祭式をおこなうがそのときに用いる歌もまたこれを“Tenebrae”という。これは福音書にある“Tenebrae factae sunt”（昼の12時から地上の全面が「暗くなって」3時に及んだ）というラテン語の最初の言葉をとったものであり、十字架上のキリストの最期の場面を描いた深刻な歌詞から成っている。多くの作曲家がこの歌詞のために作曲しているが、この曲は真偽不明の曲として、B. & H. パレストリーナ全集第32巻におさめられている曲である。そして、こんにちこの曲は、パレストリーナの“Tenebrae”として各国に出版され、またひろくたわれているが、最近の研究によって、この曲は Marc' Antonio Ingegneri（C 1545～50 生れ）のものであったことが明らかとなった。

Ave Maria

16世紀のスペイン最大の作曲家であるビットーリア（Tomas Luis de Vittoria 1549頃～1611）はその生涯の大半をイタリアで過した。当時のローマ楽派の巨匠パレストリーナに学び、作風も様式的には全くパレストリーナに近い。しかし、その精神的基盤となっているものは矢張りスペインであり、その神秘的なそして激しい熱情に支えられている。作品は殆んど宗教曲で、それも合唱作品が多く、スペインのパレストリーナともいわれている。この“アヴェマリア”は1585年頃作られたと思われるもので、サン・ジラーモ・デリア・カタリ寺院で僧職についていた時期である。歌詞は普通に使われるアヴェマリアの言葉に加えて“われら罪人の為に、今もそしてわれら”

サンドウキッチ
ホット・ドッグ

Café



進々堂
京大北門前
TEL (78) 2744

の臨終の時にも祈らせ給え。という部分がついている。曲はアルトパートに導かれ、スペイン風の旋律が見事な複音楽の処理で現れる。やがて「聖なるマリア……」からは和音的な単音楽的に流れに入り、再び対位を呼んで終る。その流麗な旋律美、大胆にさえ思われる和声の変化など、彼の作風をもっとも良く表現した曲である。

Exultate Deo (たたえよ神を)

この作曲家アレッサンドロ・スカラッティ (Alessandro Scarlatti 1660~1725) はドメニコ・スカラッティの父で、ナポリ楽派の祖といわれるイタリアの作曲家である。

17世紀から18世紀にかけて、多数のオペラを書き、イタリア式序曲や伴奏付レチタティヴォ・オブリガートなどを初めて用い、創世期におけるオペラに新しい方向を与えている。その総数115曲にも及ぶオペラの中、現在は50曲余りしか残っていないが、これからわかるように、オペラ作曲家であった。しかしミサ曲の分野でも200曲以上に及ぶ宗教作品を書いており、歌曲の代表「すみれ」「陽はガンジス河より上る」と共に声楽曲の分野においても多くの傑作を遺している。この「たたえよ神を」は1709年以後に作曲されたもので「われらの力なる神にむかいて高らかに歌え、という4拍子の力強い部分と「ヤコブの神に向いて喜びの声をあげよ、という3拍子の祈りの部分にわけられ、その間を讃歌の主題である「アレレヤ、でつないでいる。その対位旋律の流れもその構成も大変密度の高くすぐれた作品である。

—マリニャンの戦い—

ジャスカン 作曲
(吉田隆子 訳詩)

ジャスカンは16世紀フランスの有名な作曲家で、非常に描写的な手法で秀でた人です。この曲はフランスの絶対王制のもとでの戦闘を、人々の心を奮い立たせるように作曲されたものです。

歌詞よりも、むしろ音の構成によって曲の感じが出されています。全曲を通じて一度も転調されず、リズムの変化で曲が展開されていきます。2拍子、6拍子、4拍子のくり返しと描写的な擬声音も入れながら緊張感が高められていき、最後に勝利万歳という所で終ります。

王を旗印とした勇ましい戦闘描写には、苦しみや矛盾なしの楽天的気分ばかりとなっていますが、思い切ってこの人々の整然とした団結の姿を歌う事にしました。この力強さを感じていただくよう努力したいと思います。

コンパ、会合してぜひ御利用を！

清 州 旅 館

河 原 町 今 出 川

—「私の願い」—

高野喜久雄 詞 高田三郎 曲

ソプラノソロ 川辺道子 テナーソロ 沖吉和祐 バスソロ 日野利昭
ピアノ伴奏 船井美智子

この曲は、春に発表しましたが、やはり練習不足と、曲に対する接触が短期間であったため、歌うものとしても充分なものではなかったようです。そこで、この演奏会において私達として最高度の演奏にもっていきたいと一層の努力をするつもりです。私として特に練習に力をいれたのは、第2部「雲雀にかわれ」の後半のフーガの部分です。その中から浮かびあがる「雲雀」は私達自身の苦悶し、とぎされた姿ではなく、私達自身のわすれがちな深い意味での人間性の姿ではないでしょうか。この曲に関しては、賛否両論にわかれ何回となく個人的な意見を聞きましたが、やはり私としては、この曲に流れるものは、純粋なものに接した前進的な姿であると確信しています。演奏を通じて、皆さまにわかっていただきたいというよりもむしろ、感じとっていただきたいといった方がよいかも知れません。なお、鑑賞の手引にと、全歌詞がプログラムにはさまれておりますので、演奏前にぜひ一度お読み下さればよいと思います。積極的な御批判をお待ちしております。

橋 弥 良一

PROFILE

京都薬科大学ユーベルコール

我々の学校は他大学に較べて女子学生の割合が高いのですが、これも近年女子学生の薬学への関心が高まりつつある結果といえましょうか。我々のクラブは戦前は男声合唱団でしたが戦後、専門学校から薬科大学に改まり共学に成った頃より現在の混声合唱団が出来あがり当時は女子学生の少ないクラブでしたが、現在ではその数も男子以上に多いことはいまでもありません。

私達がテーマソングとしている Unser Jubel Chor は混声四部として先輩の作詞作曲によるものです。尚この Jubel Chor は独逸語で「歓喜の合唱、とでも訳しましょうか。

ここで現在のユーベルコールについて少し述べてみましょう。

我々は学校の関係上、平素は実習その他で忙しいために練習があまり出来ず、技術的にはまだまだ未熟ではありますが、合唱を楽しみ、歌う事の好きな事は無類です。それに我々クラブには一つの特徴として、いつも家庭的な雰囲気か漂っているように思われます。みなが兄弟であるかのように時には口論をし、時には慰めあって、楽しくやっています。

しかし合唱団である以上技術の向上も大切なことですのでこれからは小合唱団としての特徴をいかすと共に技術向上のために努力していききたいと思います。

ハイマート合唱団員

マネージャー 伊 沢 朗
サブマネージャー 河 合 利 彦
指揮者 長 安 敏 夫
橋 弥 良 一
客演指揮者 伊 吹 新 一

ソプラノ	テナー	バス
浅 原 岑 子 IIIΦ	大 塚 岩 男 IVT	長 安 敏 夫 MIT
坂 本 正 子 IIIS	沖 吉 和 祐 IVP	北 脇 重 宗 IVT
常 松 範 子 IIIΦ	林 哲 三 IVS	辻 和 郎 IVS
村 田 幸 子 III L	野 口 直 樹 IVT	大 平 公 雄 III T
和 田 啓 子 III L	佐 藤 茂 樹 III J	田 辺 樹 III E
川 辺 道 子 II L	中 島 暉 III S	中 村 紘 一 III S
杉 本 知 子 II L	西 村 喜 正 III T	彦 坂 正 道 III S
金 原 紀 子 II L	山 口 正 孝 III T	平 井 士 郎 III J
小 倉 さ ち 子 IS	中 西 孝 雄 III J	吉 瀬 康 之 III T
小 林 睦 子 IΦ	吉 川 一 良 III S	池 原 善 弘 II L
高 橋 明 美 I L	井 沢 宏 一 III J	伊 沢 朗 幸 II T
	井 小 村 明 II E	宇 野 義 幸 II T
ア ル ト	丸 橋 弘 II S	大 東 俊 勇 II L
鈴 岡 宏 子 IVΦ	小 丸 場 弘 II Φ	大 岡 里 利 II T
宮 後 紘 子 IVΦ	饗 上 徹 II Φ	河 合 利 彦 II A
佃 延 子 III Φ	井 田 正 II T	田 辺 利 昭 II S
道 浦 禮 子 III Φ	福 植 岡 II T	日 松 原 雄 II T
川 隅 睦 美 II L	岡 田 中 II Φ	村 上 昌 弘 II Φ
岡 本 祥 子 II J	根 藤 杉 II S	山 吉 上 田 II L
大 門 美 智 子 II Φ	美 智 子 II S	好 佐 木 II S
柴 田 陽 子 II S	岡 井 美 智 子 I L	高 島 喜 久 II S
古 岡 節 子 I L	船 井 知 子 I E	田 中 光 勝 II T
菅 船 村 上 知 子 I E		長 沢 山 明 II T
		松 浦 治 徳 I E
		矢 野 村 仁 I L
		山 上 野 晴 I A

ナカニシヤ書店

京大・正門前 ☎ 2265・3509

名曲コンサート

毎日午後3時、7時の2回開催致します

名曲珈琲

河原町蛸薬師

(丸善南側棟入) TEL (22) 5765

■ シャンソンとコーヒ・フランスの香り

1・2・3階 純喫茶

地階 SNACK & WINE・ビュッフェ コーナー

凱旋門

- 団体様、ご予約も承ります。
- 地階ビュッフェコーナーには、
キーボックスも設置致しております。

KYOTO・スカラ座前東入ル TEL (22) 2755・0530 (ビュッフェ)

TOKYO・新宿コマ劇場裏 TEL (369) 3367・6865